

水五訓

- 一. 自ら活動して他を動かすは水なり
- 二. 障碍に遭いて激し、その勢力を百倍するは水なり
- 三. 常に己れの進路を求めてやまざるは水なり
- 四. 自ら潔うして他の汚濁を洗い、
しかも清併せ容るるは水なり
- 五. 洋々として大海を満たし、
発しては雲となり、雨と変じ、
凍っては玲瓏たる氷雪と化す
しかもその性を失わざるは水なり

老子・八章

上善は水の若し。水は善く万物を利して而も争わず。衆人の悪む所に処る。故に道に幾し。居には地を善しとし、心には淵なるを善しとし、与には仁を善しとし、言には信を善しとし、正には治を善しとし、事には能を善しとし、動には時を善しとす。
夫れ唯だ争わず、故に尤め無し。

最上の善を例えるなら水だ。

万物に利沢を与えて育て上げ、水自体は利を争おうとしない。

それどころか一般の人が避ける場所、例えば低い土地に居る。

目立たず、万物を潤している。

これが自然の法則に最も近い。

居場所を良い大地にし、澄んだ淵のような静かな心境で、

仲間には仁を、語らひは信頼を、

善いまつりごとで治め、仕事は良く機能し、

時を失するような事は無い。

水の偉大さは万物に順じ争わないこと。だから咎められるような事は無い。

大門の好きな 『水』

水は丸い器に入れば丸くなり、

四角い器に入れば四角になる。

そのあり方はきわめて柔軟で謙虚だ。

それでいて硬い岩でも打ち砕く力を秘めている。

一見、主体性がないように見えるが、

その実つねに低いところへ流れようと強固な主体性を秘め、
何も為していないように見えながら万物に恩恵を与えている。

時には水蒸気や超臨界水となり氷となって、

その姿は臨機応変、自由自在。

人間もかくありたいものだ。